



各種レポートの管理

Cisco Prime Infrastructure によるレポート作成は、ネットワーク問題のトラブルシューティングに不可欠ですが、システムやネットワークの状態をモニタする上でも必要です。即時でも定期的にも、複数のレポートを生成して実行できます。レポートを組み合わせることで複合レポートを作成することも可能です。レポートの種類ごとに、レポートの定義に役立つ多数のユーザ定義の条件が用意されています。レポートは、概要、表、または組み合わせ(表とグラフ)レイアウトで書式化できます。定義したレポートは、今後の診断用に保存したり、定期的に行うようにスケジューリングすることができます。

レポートは次の形式で保存されます。

- **CSV:** 標準形式。いずれかの CSV レポートが 15,000 レコードを超えると必ず、Prime Infrastructure は ZIP ファイルを作成してそのレポートのすべての CSV ファイルを ZIP ファイルに保存します。
- **PDF:** これらのレポートは、後でダウンロードするために Prime Infrastructure 上のファイルに保存されるか、または特定の電子メールアドレスに送信されます。

以下のレポート カテゴリがあります。

- **現在:** 時間に依存しないデータのスナップショットを提供します。
- **履歴:** デバイスから定期的にデータを取得し、そのデータを Prime Infrastructure のデータベースに保存します。
- **傾向:** 集約データを使用してレポートを生成します。デバイスから定期的にデータを収集できるほか、レポートの生成スケジュールを作成できます。
- **上位 N 件:** 上位の使用率に基づいてレポートを生成します。

どのレポートも Prime Infrastructure を使用してエクスポートでき、表示したり、論理グループに分類したり、長期保管用にアーカイブしたりできます。

[レポート (Reports)] メニューを使用すると、すべての Prime Infrastructure レポートに加えて、現在保存されているレポートやスケジュールされているレポートにもアクセスできます。以下のメニュー項目があります。

- [レポート ランチ パッド (Report Launch Pad)]: すべての Prime Infrastructure レポートへのポータルとなるページです。このページから、特定タイプのレポートにアクセスしたり、新しいレポートを作成することができます。
- [スケジュール設定された実行結果 (Scheduled Run Results)]: 現在 Prime Infrastructure でスケジュールされているすべての実行にアクセスして管理したり、オンデマンド エクスポート および電子メール レポートにアクセスして管理することができます。
- [保存済みレポート テンプレート (Saved Report Templates)]: 現在 Prime Infrastructure に保存されているすべてのレポート テンプレートにアクセスして管理できます。

レポート フィールドの説明については、「関連項目」の『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』を参照してください。

関連項目

- [レポートの管理](#)
- [スケジュール設定されたレポートについて](#)
- [保存されているレポート テンプレートについて](#)
- [Prime Infrastructure のレポート](#)
- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)

レポートの管理

[レポート起動パッド(Report Launch Pad)] では、1 つのページからすべての Prime Infrastructure レポートにアクセスできます。新しいレポートの作成と保存、現在のレポートの表示、特定タイプのレポートのオープン、後で実行するレポートのスケジューリング、レポート結果のカスタマイズ、複数のレポートの組み合わせによる 1 つのレポートの作成などを実行できます。

レポートの詳細を表示するには、レポートの種類のあるツールチップにカーソルを移動します。

関連項目

- [各種レポートの管理](#)
- [新しいレポートの作成、スケジューリング、実行](#)
- [レポートの結合](#)
- [レポート結果のカスタマイズ](#)
- [スケジュール設定されたレポートについて](#)
- [保存されているレポート テンプレートについて](#)
- [Prime Infrastructure のレポート](#)

新しいレポートの作成、スケジューリング、実行

新しいレポートを作成してスケジュール設定し、実行するには:

-
- ステップ 1** [レポート(Reports)] > [レポート起動パッド(Report Launch Pad)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のサイドバー メニューからカテゴリを選択して各レポート カテゴリのレポート タイプを表示し、[レポート起動パッド(Report Launch Pad)] のメインエリアで該当するレポートに対応する [新規(New)] をクリックします。
- ステップ 3** [レポートの詳細(Report Details)] ページで、[レポート起動パッド(Report Launch Pad)] > [レポートの種類(Report Type)] > [新規(New)] の説明に従って、フィールドに入力します。「関連項目」の『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』を参照してください。[レポートの詳細(Report Details)] に表示されるパラメータはレポートの種類によって異なります。一部のレポートでは、レポートの結果をカスタマイズする必要があります。

- ステップ 4** レポートを後で実行する場合や繰り返しレポートとして実行する場合は、[レポート起動パッド (Report Launch Pad)] > [レポートの種類 (Report Type)] > [新規 (New)] の説明に従って、スケジュール パラメータを入力します。「関連項目」の『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』を参照してください。
- ステップ 5** レポートを実行するには、次のいずれかのオプションを選択します。
- [実行 (Run)]: レポート設定を保存せずにレポートを実行する場合にクリックします。
 - [保存 (Save)]: レポートをすぐに実行せずにこのレポート設定を保存する場合にクリックします。スケジュール パラメータが入力済みの場合は、スケジュールされた日時にレポートが自動的に実行されます。
 - [実行して保存 (Run and Save)]: レポートの設定を保存し、ただちにレポートを実行する場合にクリックします。
 - [保存してエクスポート (Save and Export)]: レポートを保存して実行し、結果をファイルにエクスポートする場合にクリックします。以下を要求するプロンプトが表示されます。
 - エクスポートするレポートのファイル形式 (CSV または PDF) を選択します。
 - レポートが生成された際に電子メールを送信するかどうかを選択します。このオプションを選択する場合は、宛先メール アドレスと電子メールの件名を入力し、エクスポート ファイルを添付ファイルとして電子メールに含めるかどうかを選択する必要があります。
 - [OK] をクリックします。
- CSV ファイルが正しく開かない場合は、次のいずれかの場所で区切り記号としてカンマが指定されていることを確認してください。
- [コントロール パネル] > [地域と言語] > [形式] > [追加の設定]。
 - Excel: [ファイル] > [オプション] > [詳細設定] > [システムの桁区切りを使用する]
- [保存して電子メール (Save and Email)]: レポートを保存して実行し、結果をファイルにエクスポートして電子メールで送信する場合にクリックします。以下を要求するプロンプトが表示されます。
 - エクスポートするレポートのファイル形式を選択します。
 - 宛先メール アドレスと電子メールの件名を入力します。
 - [OK] をクリックします。
 - [キャンセル (Cancel)]: このレポートを実行も保存もせずに前のページに戻る場合にクリックします。

特定のレポートの種類用にレポートが保存されている場合は、[レポート起動パッド (Report Launch Pad)] から現在のレポートにアクセスできます。

すべてのサブドメイン用に生成されたレポートを同時に変更したり更新することはできません。それぞれのサブドメインで個々にレポートを開いて変更できます。すべてのレポートを更新するには、サブドメインで生成されたレポートを削除し、仮想ドメイン レポートを再生成して変更を反映させます。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)
- [レポートの結合](#)
- [レポート結果のカスタマイズ](#)

レポートの結合

複数のレポートを結合し、要件に基づいて情報をフィルタリングできます。ユーザは、それぞれのシナリオ向けに特別なレポートを作成するのではなく、複数のレポートを選択して結合できます。複合レポートは、サポートされているレポートの定義済みリストから作成できます。

新規の複合レポートを作成するには:

-
- ステップ 1** [レポート(Reports)] > [レポート起動パッド(Report Launch Pad)] の順に選択します。次のいずれかの方法で新しいレポートを作成できます。
- a. 左側のサイドバーメニューで [複合(Composite)] > [複合レポート(Composite Report)] を選択し、[新規(New)] をクリックします。
 - b. [レポート起動パッド(Report Launch Pad)] ページで、[複合(Composite)] セクションを下方にスクロールして [新規(New)] をクリックします。
- ステップ 2** [新規カスタム複合レポート(New Custom Composite Report)] ページで、レポートのタイトルを入力します。
- ステップ 3** [レポートカテゴリ(Report Category)] ドロップダウンリストからカテゴリを選択します。
- ステップ 4** 使用可能なリストから必要なレポートを選択して [選択されたレポート(Selected Reports)] テキストボックスに追加します。レポートを選択して削除することもできます。
- ステップ 5** ドロップダウンリストから適切な [レポート作成者(Report By)] カテゴリを選択します。カテゴリはレポートごとに異なります。
- ステップ 6** [レポート基準(Report Criteria)] フィールドでは、前の [レポート作成者(Report By)] で行った選択に応じて結果を分類できます。[編集(Edit)] をクリックして [フィルタ基準(Filter Criteria)] ページを開き、必要なフィルタ基準を選択します。
- ステップ 7** レポートを後で実行する場合や繰り返しレポートとして実行する場合は、[スケジュール(Schedule)] セクションでスケジュールパラメータを入力します。
- ステップ 8** レポートを実行するには、次のいずれかのオプションを選択します。
- [実行(Run)]: レポート設定を保存せずにレポートを実行する場合にクリックします。
 - [保存(Save)]: レポートをただちに実行せずに、レポート設定を保存する場合にクリックします。スケジュールパラメータが入力済みの場合は、スケジュールされた日時にレポートが実行されます。
 - [実行して保存(Run and Save)]: レポート設定を保存し、ただちにレポートを実行する場合にクリックします。
 - [保存してエクスポート(Save and Export)]: レポートを保存して実行し、結果をファイルまたは電子メールの添付ファイルにエクスポートする場合にクリックします。その場合は、以下を実行する必要があります。
 - エクスポートするレポートのファイル形式を選択します(CSV または PDF)。
 - レポートが生成された際に電子メールを送信する場合は、最初のチェックボックスをオンにします。宛先メールアドレスと電子メールの件名を入力する必要があります。
 - エクスポートファイルを添付ファイルとして電子メールに含める場合は、2 番目のチェックボックスをオンにします。
- [OK] をクリックします。

- [保存して電子メール送信 (Save and Email)]: レポートを保存して実行し、結果をファイルにエクスポートして電子メールで送信する場合にクリックします。以下を要求するプロンプトが表示されます。
 - エクスポートするレポートのファイル形式を選択します。
 - 宛先メールアドレスと電子メールの件名を入力します。[OK] をクリックします。
- [キャンセル (Cancel)]: このレポートを実行も保存もせずに、前のページに戻る場合にクリックします。

保存されている複合レポートには [保存済みレポート テンプレート (Saved Report Templates)] からアクセスできます。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)
- [新しいレポートの作成、スケジューリング、実行](#)
- [レポート結果のカスタマイズ](#)

レポート結果のカスタマイズ

多くのレポートでは、結果をカスタマイズして、必要な情報を含めたり除外することができます。作成するレポートでこれが許可されている場合、[カスタマイズ (Customize)] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、[カスタム レポートの作成 (Create Custom Report)] ページにアクセスして、レポートの結果をカスタマイズできます。

レポート結果のカスタマイズが必要になる場合があります。たとえば、Flexible NetFlow (FNF) 拡張パラメータをトラフィック分析、アプリケーション、または音声ビデオデータのモニタリング テンプレートに追加すると、それらのパラメータは Prime Infrastructure のモニタリング設定の一部になります。ただし、収集された FNF 拡張モニタリング データは、コア、アプリケーション応答所要時間 (ART)、および RTP パフォーマンスに関するそれぞれの Conversations レポートに自動的に表示されるわけではありません。FNF データが Conversations レポートに含まれるようにするには、[カスタム レポートの作成 (Create Custom Report)] ページを使用して、[含めるデータ フィールド (Data fields to include)] 列に FNF パラメータを追加する必要があります。「関連項目」に示されている『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』の「Customizing」ページを参照してください。

レポート結果をカスタマイズするには:

- ステップ 1 [レポート (Reports)] > [レポート起動パッド (Report Launch Pad)] の順に選択します。
- ステップ 2 該当するレポートの [レポートタイトル (Report Title)] リンクをクリックします。
- ステップ 3 [レポートの詳細 (Report Details)] ページで [カスタマイズ (Customize)] をクリックします。
- ステップ 4 [カスタム レポートの作成 (Create Custom Report)] ページで、必要な情報を入力し、[適用 (Apply)] をクリックして変更を確定します。

[カスタム レポートの作成 (Create Custom Report)] ページで行った変更は、[レポートの詳細 (Report Details)] ページで [保存 (Save)] をクリックしないうちは保存されません。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)
- [新しいレポートの作成、スケジューリング、実行](#)
- [レポートの結合](#)

スケジュール設定されたレポートについて

Prime Infrastructure でスケジュール設定されているレポートをすべて表示するには、[レポート (Report)] > [スケジュール設定された実行結果 (Scheduled Run Results)] の順に選択します。

スケジュール設定されたレポート タスクは、それが実行される仮想ドメインの外部では表示されません。スケジュール設定されたレポート タスクの結果は、対応するドメインの [スケジュール設定された実行結果 (Scheduled Run Results)] ページで表示できます。

スケジュールされた実行のリストは、レポート カテゴリ、レポートの種類、タイム フレーム、およびレポート生成方法でソートできます。このページのフィールドの詳細については、「関連項目」に示されている『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』の「Scheduled Run Results」ページを参照してください。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)
- [新しいレポートの作成、スケジューリング、実行](#)
- [レポートの結合](#)
- [レポート結果のカスタマイズ](#)
- [各種レポートの管理](#)
- [保存されているレポート テンプレートについて](#)
- [Prime Infrastructure のレポート](#)

保存されているレポート テンプレートについて

保存されているレポート テンプレートは、[レポート (Reports)] > [保存済みレポート テンプレート (Saved Report Templates)] で使用できます。[保存済みレポート テンプレート (Saved Report Templates)] ページでは、レポート テンプレートを作成したり、保存されているレポート テンプレートを管理することができます。保存されているレポートは有効化、無効化、削除、または実行することができます。また、レポート テンプレートをカテゴリ別、タイプ別、ステータス別にフィルタリングしてソートできます。[Saved Report Templates] ページのフィールド、および保存されているレポート テンプレートのフィルタリングの詳細については、「関連項目」の『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』を参照してください。

[保存済みレポート テンプレート (Saved Report Templates)] ページには、次の情報が表示されます。

- [レポート タイトル (Report Title)]: ユーザが割り当てたレポート名を示します。
このレポートの詳細を表示するには、レポート タイトルをクリックします。
- [レポートの種類 (Report Type)]: 特定のレポートの種類を示します。
- [スケジュール済み (Scheduled)]: このレポートが有効か無効かを示します。

- [仮想ドメイン(Virtual Domain)]: このレポートがスケジュールされている仮想ドメインの名前を指定します。
- [今すぐ実行(Run Now)]: 現在のレポートをただちに実行するには、[実行(run)] アイコンをクリックします。

サブ仮想ドメインに対してドメインベースのレポートを実行すると、レポートには、現在ログインしている仮想ドメインにマッピングされているデバイス属性がすべて表示されます。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)
- [新しいレポートの作成、スケジューリング、実行](#)
- [レポート結果のカスタマイズ](#)
- [各種レポートの管理](#)
- [Prime Infrastructure のレポート](#)
- [スケジュール設定されたレポートについて](#)

Prime Infrastructure のレポート

[管理(Administration)] > [設定(Settings)] > [システム設定(System Settings)] > [データ保持期間(Data Retention)] での選択に基づいて設定されるデータ保持期間に応じて、レポートには毎時、毎日、または毎週のデータが表示されます。データは、次の基準に基づいてデータベースから取得されます。

期間が以下の場合:

1. 直近 1 日まで: データは raw テーブルから取得されます。
2. 直近 2 日から 4 週間: データは毎時の集約テーブルから取得されます。
3. 前月から直近 12 週間: 毎日の集約テーブルから取得されます。
4. 直近 6 か月から直近 1 年: データは毎週の集約テーブルから取得されます。

Prime Infrastructure レポートの詳細については、「関連項目」の『Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports』を参照してください。

関連項目

- [Field Reference for Cisco Prime Infrastructure Reports](#)

